

ペテロの手紙第一 1:3-4 生ける望み

【導入:50年ぶりの再会】1974年、ベトナムである出来事がありました。ある男の子が、止まっていたトラックの荷台で遊んでいるうちに、そのまま眠ってしまいました。ところが、男の子が眠っている間に、そのトラックは夜のうちに別の街へ行ってしまい、男の子は一瞬にして迷子になってしまいました。両親はこの子を結局見つけることができず、一生「この子は死んだのだ」と思い込み、罪悪感の中で生きてきました。

迷子になったこの子は、成長しながら家族を探すために力を尽くしました。50年が経ち、その子が60歳になった時、離ればなれになった家族を探してくれるSNSの番組に投稿し、インタビューを受けました。この映像がアップロードされてからわずか二日後、それを見た従兄弟(いとこ)が直感し、その従兄弟の連絡によって息子と父親が出会い、DNA鑑定を行いました。

それから間もなく、二人は本当の親子であることが確認され、50年ぶりに泣きながら抱き合い、再会を果たしました。この時、80歳になった父親が番組のスタッフに語った言葉は、次のようなものでした。「息子が死んだと信じてから、私たちの人生も死んでいました。しかし、息子が生きているという言葉聞いた瞬間、私は再び生き返り、立ち上がることができました。」

父親は、自分の目で直接確認する前であっても、「自分の子供は死んだのだ」と信じた瞬間からその人生が死んだようになり、「子供は死んだのではなく生きている、再会できる」という希望を抱いた時、生き返る経験をしたのです。

今日は、イエス様が死の力を打ち破って復活された日を記念する復活祭の礼拝です。皆さん、私たちは復活されたイエス様を直接見てはいませんが、これと同じことだと思います。

イエス様が復活されたということを私が信じれば、私たちが生きるこの地で大きな力を得て歩むようになり、その復活の恵みにあずかる者となるのです。ですから、今日、イエス様の復活を私たちが本当に信じるなら、私たちの人生にどのような力が与えられるのかについて、分かち合いたいと思います。

まず、今日私たちが読んだ本文を見ると、イエス様が復活されたと語っています。

3節を読んでみましょう。[私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました]

聖書は、イエス様が十字架で死なれ、葬られ、三日目に復活されたと語っています。つまり、イエス様の復活は歴史的な事実です。もしイエス様が死んで復活されなかったなら、イエス様は単なる「殉教者」にすぎません。神さまではなく人間にすぎず、もしイエス様が復活されなかったなら、キリスト教が語る内容は嘘になり、私たちの信仰もむなしなものになってしまいます。使徒パウロも、コリント人への手紙 第一 15章で次のように語っています。

14節「そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。」

もし、イエス様の復活がウソだとしたら、キリスト教はなくなってしまいます。私たちの罪の問題も解決されないままですし、私たちの信じていることも、すべて無意味になってしまうのです。ところ

が、今日の本文も、イエス様が復活されたと語っています。イエス様の復活が歴史上、本当のことであったと言える決定的な証拠は、「弟子たちの変化」です。

イエス様が捕らえられた時、12人の弟子たちはみんな逃げ出してしまいました。その中でもペテロは、イエス様が見ている前で、三回も「知らない」と否定してしまいました。弟子たちはなぜ逃げたのでしょうか。怖かったからです。自分たちもイエス様のように捕まって、苦しみに遭うのではないかという恐怖のために逃げ出したのです。ところが、短い期間のうちに、弟子たちが変化します。

イエス様の弟子であるという事実さえ恐れていた者たちが、イエス様を人々に伝える者へと変化したのです。期間で考えてみるなら、約50日です。さらには、殺される瞬間まで、一人を除いてすべての弟子が殉教(信仰のために命を捧げること)しました。

何が彼らを変化させたのでしょうか。もし弟子の誰かに、「今のお金で10億円をあげるから、イエス様が復活したという話を人々に伝えろ」と言ったなら、皆さんならどうしますか。当時、イエス様について語れば、捕まって殺されるかもしれない状況です。決して、人間は「嘘」のために人生をかけたりはしません。お金をいくらたくさんもらっても、殺されてしまったら何の意味もないからです。

どのような理由をもってしても、わずか50日の間に12人の弟子が変化したということを、復活以外に説明する方法はないです。12人の弟子だけだったのでしょうか。使徒パウロという人物も、聖書の記録によれば、イエス様を信じる者たちを迫害する者でした。イエスを信じる人々を捕まえに行っていた人が、ダマスコへ行く途中で復活されたイエス様に出会い、むしろイエス様を証しする人へと変わりました。

ついこの前までイエス様を信じる人を迫害し、捕まえていた人が、イエス様を伝える者に変化したので、人々は驚きました。弟子たちの変化、パウロの変化。聖書が語る通り、復活されたイエス様に直接会ったからこそ、彼らは多くの迫害の中でも屈することなく、喜びをもって伝えることができたのです。

つまり、イエス様の復活は歴史的な事実だということです。

それでは、イエス様の復活にはどのような意味があるのでしょうか。

【死の権威に勝利されたこと】

イエス様が死んで復活されたということは、罪と死の力に打ち勝ったということです。これは驚くべき話です。誰であっても、死の前では屈するしかありません。この世でどんなに大きな権力を持っていても、大きな成功を収めていても、死の前では誰もが例外なく死ぬことになります。墓に葬られれば終わりです。それほどまでに「死の力」の前に、誰もどうすることもできなかったのに、イエス様はその死の力を打ち破って復活されたのです。

イエス様は十字架の上で完全に死なれました。墓に葬られました。完全に死なれましたが、約束通り三日後に、その死の中から新しい命を持って、墓を突き破って復活されたのです。

だから、イースターには卵を象徴として配り合うのです。卵は、見た目は固くて冷たい石のように見えます。しかし、その中には命が育っており、時が来れば雛(ひよこ)が殻を破って出てきます。卵の固い殻は「墓」を、そこから出てくる命は「復活されたイエス様」を象徴する意味で、卵を配るようになりました。最近ではウサギもイースターの象徴として使われているようですが、多産を意味で使われているのでしょうか。個人的には少し無理やり結びつけたような感じもします。

イエス様が死の力に勝利して復活されたということは、「私たちも復活できる」ということです。なぜなら、聖書は次のように約束しているからです。

コリント人への手紙 第一 15章20節「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」

「初穂(最初の実)」ということは、同じような実が続けて結ばれるという意味です。リンゴの木にリンゴが一つだけ実るわけではありませんよね。一つの実が結ばれれば、時間が経つにつれて、同じように次から次へと実が結ばれるように。イエス様の復活は、イエス様を信じる人々が、イエス様と同じように復活することを聖書が約束しているのです。

ですから、聖書を見ると、イエス様を信じる者は「眠った」という表現が使われます。死んだらザロに向かって、イエス様は「眠っている。私が起こしに行く」と言われました(ヨハネ11:11)。イエス様を信じる人は「死んだ」のではなく「眠っている」のです。なぜなら、神様の時に再び目を覚まし、生き返るからです。だから「眠っている」と言うのです。

皆さん、もし私たちが「死んだら終わりだ」としたら、どれほど虚しく、絶望的で、悲しいことでしょうか。死が終わりであるなら、私たちの人生はあまりにも虚しくありませんか。絶望的ではありませんか。怖いですね。

花束を考えてみてください。花束はとても綺麗ですよ。土曜日、家の近くのスーパーで買い物をしていた時、花屋がありました。華やかな花をセウンが見ながら「すごく綺麗だね」と言っていました。花束はとても綺麗で、香りも良くて、素晴らしいものです。しかし、数日経つとどうなるでしょうか。枯れてしまい、カサカサに乾いてしまいます。花束を受け取った瞬間は綺麗で嬉しいものですが、根から切り離されているので、花が枯れて乾いていくのは時間の問題です。

人間も同じではないでしょうか。今は健康で、体力もありますが、だんだんと時間が経つにつれて、あちこちが痛くなり、衰えていき、死に向かって進んでいくのです。それほど絶望的で、悲しいです。しかし聖書は、イエス様を信じれば救われ、イエス様が実際にこの地で復活されたように、私たちも復活の命によって新しく生き返ることを約束しているのです。

ですから、信じる人々にとって死は決して終わりではありません。死に悲しみだけがあるわけではないです。クリスチャンの葬儀には悲しみだけあるのではなく、「死」という門を通過して永遠なる人生へ進んでいくことを信じているので、慰めがあり、希望があるのです。愛する人との別れに悲しい気持ちもありますが、復活の信仰がある上、「いつかはまた会える」という確信があります。

イースターを迎え、私たちに与えられる第一のメッセージは、イエス様にあって「死は決して終わりではない」ということです。永遠の命の始まりであり、あの天国へと入る関門(入り口)であります。ですから、イエス様を信じる人にとって、死はもはや絶望や悲しみではなく、むしろ、大きな希望であり、勝利なのです。

第二に、「生ける望み(生きた希望)」を持たせてくれます。3節を見ると、

「復活によって新しく生まれさせて(新生)」とあります。3節の御言葉を読んでみましょう。【。。。イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。】

「復活によって新しく生まれさせて」とありますが、「新しく生まれる(新生)」という言葉の原語(ギリシャ語)の意味を見ると、「上から」、すなわち「神様から」霊的な命をいただき、霊的に新しい人として新しく生まれることを意味します。

道徳的に少し良い人になる, といった改善のレベルではありません. 神様の霊によって, 私の内面が新しく生まれ変わります. そのため, 以前とは違って, 自分中心の生き方ではなくイエス様中心の生き方へと変わっていきます. 罪を嫌うようになり, 聖くイエス様に似た者として生きるようになります.

「死に打ち勝たれたイエス様の命が, 聖霊様を通して私たちに届けられたのです. ですから, 復活がなければ私たちの新生(新しく生まれること)もありません。」

イエス様の復活の命によって新しく生まれた人は, 「生ける望み」を所有するようになります. 3節の御言葉をもう一度見てみましょう.【。。。イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって, 私たちを新しく生まれさせて, 生ける望みを持つようにしてくださいました。】

「生ける望み」とは, 英語では「Living Hope」といいます. 単に「私の状況が良くなるだろう」「上手くいこう」という望みではないです. 状況や環境によって薄れてしまうような希望でもありません. 変わる事のない望み, 現在の激しい困難の中でも耐え抜かせてくれる「生きた希望」です.

普段, 私たちはこの世で様々な希望を持って生きています. 「漠然と状況が良くなるだろう」と考えたり, あるいは自分を頼りにして「自分が成功すれば」「もっと能力を身につければ」と考えたり, お金や名誉や子供が希望になったりもします. しかし, そのような希望はどれほど揺らぎやすいでしょうか. それらが自分の手から離れていけば, すぐに揺らいでしまうものなのです.

しかし, ここで言う「生ける望み」とは, 4節の御言葉にあるように, この世のものを指しているのではないです. 神様によって新しく生まれた人が, 死ぬことなく復活し, 神様の資産を受け継いで, 神の国の中で豊かに暮らすようになることを意味します.

ペテロの手紙 第一 1章4節「また, 朽ちることも汚れることも, 消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました. これはあなたがたのために, 天にたくわえられているのです。」

ここで言う「資産」とは, 神の国や救いなどを意味します. 「神の国」とは, 神様が治められる国です. 聖書には, 神の国が完成する時の姿が描かれています. イザヤ書11章6節から9節を見ましょう.

「6 狼は子羊とともに宿り, ひょうは子やぎとともに伏し, 子牛, 若獅子, 肥えた家畜が共にいて, 小さい子どもがこれを追っていく. 7 雌牛と熊とは共に草をはみ, その子らは共に伏し, 獅子も牛のようにわらを食う. 8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ, 乳離れした子はまむしの子に手を伸べる. 9 わたしの聖なる山のどこにおいても, これらは害を加えず, そこなわない. 主を知ることが, 海をおおう水のように, 地を満たすからである。」

動物たちも互いに仲良く過ごすのです. 争いや暴力がなく, 老いも病も死もない, 完璧で調和のとれた国の姿です. たまに動物園に行ってライオンを見ると, 目の前を行ったり来たりしています. そのライオンを撫でてみたい, 一緒に遊びたいという気持ちになることがありますが, 神の国が完成する時には, それが可能なのです.

また, 神の国を治められる神さまは, 正しい方であり, 公平な方であり, 愛と慈しみに溢れる方です. 皆さんも, 今の世の中でも, 治安が良く, 福祉が整い, 素晴らしいリーダーがいる国に住みたいと思いますよね. 美しく, 住み心地の良い場所を求めて移住したりもします. 神の国は, 苦しみもなく, 病もなく, 悲しみもない, 完璧に調和した国なのです. これこそが, イエス様の復活によって新しく生まれた者が所有するものなのです.

それだけではありません。聖書では、私たちが将来「完璧な肉体」を持つようになるかと語っています。コリント人への手紙 第一 15章53節に、「この朽ちるものは、必ず朽ちないものを着、この死ぬものは、必ず死なないものを着ることになります」とあります。つまり、イエス様が復活して復活の体を着られたように、私たちが神の国にふさわしい新しい体を着せていただくという約束です。その体は「朽ちない体」です。痛むこともなく、衰えることもなく、病気になることも死ぬこともなく、罪に染まることもない体です。

皆さん、この世で私たちはこの肉体の体のために、本当に多くの苦しみや悲しみを経験します。健康な時は分かりませんが、健康を損なうと、悲しいです。

先日、韓国に住む知り合いの青年と連絡をとりました。その青年は30代と若いですが、しかし以前から消化があまり良くない青年でした。ですから、青年たちと一緒に礼拝の後に食事に行っても、小麦粉が入ったものは避けるなど、食べるものにとっても気をつけていました。ところが先日、電話をしてみると、会社を1ヶ月休むと言うのです。体調が悪化して、会社から「1ヶ月休んで、消化不良を治してから来なさい」と言われたそうです。詳しい内容は分かりませんが、そのことで大変な思いをしていたようなので、「お祈りするね」と伝えました。

私も先週、青年たちと一緒に函館キャンプに行ってきましたが、青年たちは寝る間も惜しんで体力が溢れています。私は初日から床に寝袋を敷いて寝ましたが、普段どこでもよく眠れるのに、不思議と眠れませんでした。夜通し、美しいびきの音楽が止まらなくてなかなか寝れませんでした。しかし、体力が溢れる青年たちは元気、元気でその姿を見ながら、「昔は私もあであったのに」と、少し寂しい気持ちを感じました。

この世で生きる私たちは、だんだん衰えてきますが、後になって私たちがイエス様のように復活して得る体は、衰えることもなく、病気になることもなく、罪に染まることもない聖なる体なのです。もう体や心の病気の上で苦しまなくてもよい、夫な体として、復活の時には新しく着せられるのです。ですから、イエス様の復活は、私たちにとって大きな慰めであり希望なのです。

まとめます。ペテロの手紙 第一は、小アジア地域で迫害を受けている聖徒たち、そしてネロ皇帝によってこれから押し寄せる恐ろしい苦難を前にした聖徒たちに向けて伝えられた内容です。そのような困難と迫害の中で、他の何かで慰めるのではなく、真に私たちの「生ける望み(生きた希望)」となられたイエス様によって、彼らを励まし、信仰を持たせたのです。

おそらく、小アジア地域の人々は、この地上で得られるものは何もなかったかもしれません。迫害の中で安定した生活も、子供も、家も、さらには命さえもすべて失う可能性がありましたが、決して朽ちることも、汚れることも、消えてなくなることもない「神様の資産」があると、ペテロは慰めの手紙を書いたのです。たとえ死んだとしても、再びイエス様のように復活する希望が私たちにはあり、神の国で永遠に共に生きる日を信仰によって見つめるようにと励ましました。その消えることのない「生ける望み」が、彼らにとって現在の困難を乗り越えていく大きな力であり、生きた希望だったのです。

イエス様の復活は、死という絶望の前に希望を与え、イエス様の復活の命は、私たちが新しく生まれさせて(新生)、この世にあるものではなく永遠の価値を見つめさせ、決して変わることはない、消えることのない「生ける望み」を持たせてくれます。

イエス様が墓を打ち破って生き返られたように、復活の命を受け入れるなら、すべての困難と絶望から、神様が私たちを立ち上がらせてくださり、真の希望を与えてくださると信じます。